

想いを繋ぐ



**Kaigo-Robot
Platform 2024**

令和6年度 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業

【施設名】 社会福祉法人奥州いさわ会
特別養護老人ホームぬくもりの家

【相談窓口名】 (公財) いきいき岩手支援財団
岩手県高齢者総合支援センター

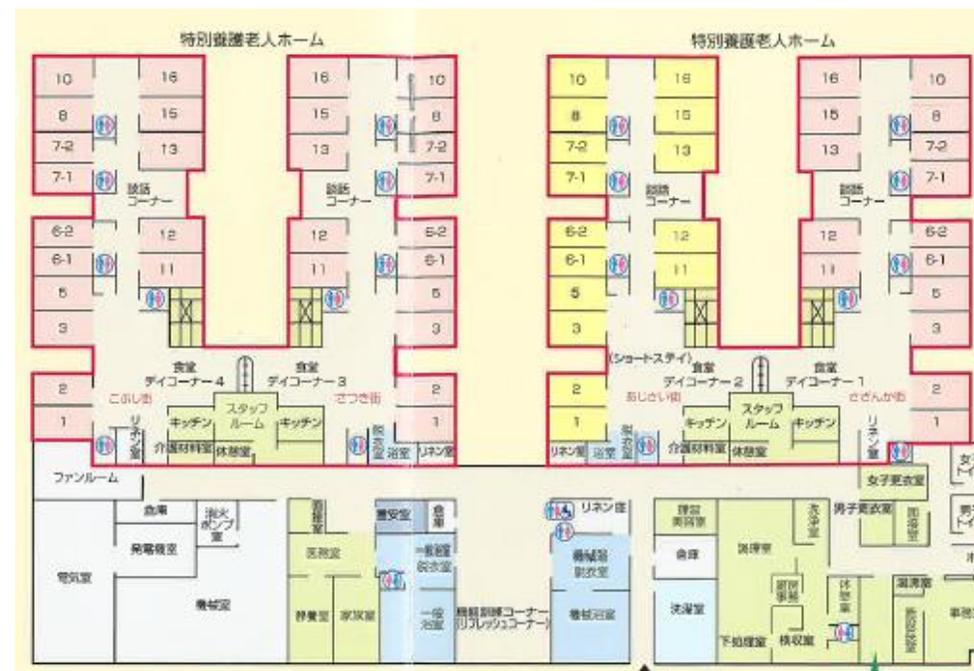
施設概要



介護ロボットプラットフォーム



施設名	特別養護老人ホームめくもりの家
事業内容	介護老人福祉施設
定員	50名
開設日	平成14年4月25日
所在地	〒023-0401 岩手県奥州市胆沢南都田字大持30番地



取り組み全体の流れ



介護ロボットプラットフォーム

パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

プロジェクトの流れ

<ul style="list-style-type: none"> 改善活動を検討・実行に移すための体制づくり 介護現場での課題把握 ハナスト使用と1日の業務流れに関して棚卸しを行う ハナスト使用における課題把握 課題をふまえたハナスト使用について基準・ルール、マニュアルの作成。また1日の業務流れのマスターラインを作成 作成した基準・ルール、マニュアル、マスターラインの周知・運用方法の検討 	9~12月
<ul style="list-style-type: none"> 新しい基準・ルール、マニュアル、マスターラインの運用 実践とブラッシュアップ 	12月
<ul style="list-style-type: none"> 期待していた効果（仮説）に対する、効果検証 振り返りの実施（良かった点、今後改善する点等の検討） 	1月
<ul style="list-style-type: none"> うまくいかなかったことに対しての実行計画の見直し 	2月

取り組みの結果



介護ロボットプラットフォーム

パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

手順 1 改善活動の準備をしよう



介護ロボットプラットフォーム

実施したこと

- 生産性向上の取組を推進するにあたって、プロジェクトチームを作る
- 現場担当者に任せるだけでなく、経営層（トップ層）も関与
- 経営層（トップ層）から、取組開始のキックオフ宣言をし、取組みの意義等を周知する



各ユニット会議にて全体共有



各ユニット会議で参加できていない人のために
施設長より動画にて事業内容を共有

手順 2 現場の課題を見える化しよう

実施したこと

- 現状把握アンケートを実施し現場課題を見える化する
- 自分たちの目指す姿、したいことを出し合い共有する
- 見える化した現場課題について対話し課題の絞り込みを行う
- 絞り込んだ課題について深掘アンケート（タイムスタディー、ハナストについて）を実施し深掘りを行う

課題の見える化

現場の課題

- ICTを活用した成果の実感、ケアに活用できていない
- ハナスト使用がフルタイム職員のみでの使用と使用者が限られている
- ハナストで記録は行っているがインカム機能を使いこなせていない
特に介護職同士の連携は少ない
- ハナストを誰がいつどこで使用するか共通の認識がない
- ハナストで記録していても時間切れなど入力がうまくいかない
- 業務に追われている、利用者からも「いつもいそがしそうだね」と言われる
- 食堂に残されている利用者を見て、「楽しくなさそう」と感じる
- 職員の休みや他業務で抜ける、不穏の利用者がいるなどの時、協力ユニットまで見なければならぬ時などは見守り業務は負担を感じる。また、転倒などの事故に緊張、プレッシャーもかかる

考察したこと

- 専門性を活かしてもっと利用者に関わり今以上のいいケアを提供していきたいけれど今はそこまで時間がとれていないというギャップは職員の方々のストレスにもなっている可能性も考えられる
- 直接ケアは職員の働く時間に対し占める割合は多く、介護職員がその間何かしら助けて欲しい状況が発生している可能性が高い。しかしインカム使用は医療・看護に対する使用頻度に比べ介護職間の使用頻度は低く、連携がとれず、ムリ、ムダ、ムラにつながり、身体的負担や精神的負担がかかりやすくなっていると考えられる
- **ハナストを効果的に使用する仕組みを整え**るとより、**職員の連携を促し、ムリ・ムダ・ムラを軽減し身体的負担を軽減、チームで働いている実感を持てる環境を整え精神的負担を軽減すると、職員に余裕ができ、利用者の関わりにもいい影響が出ると考えた**

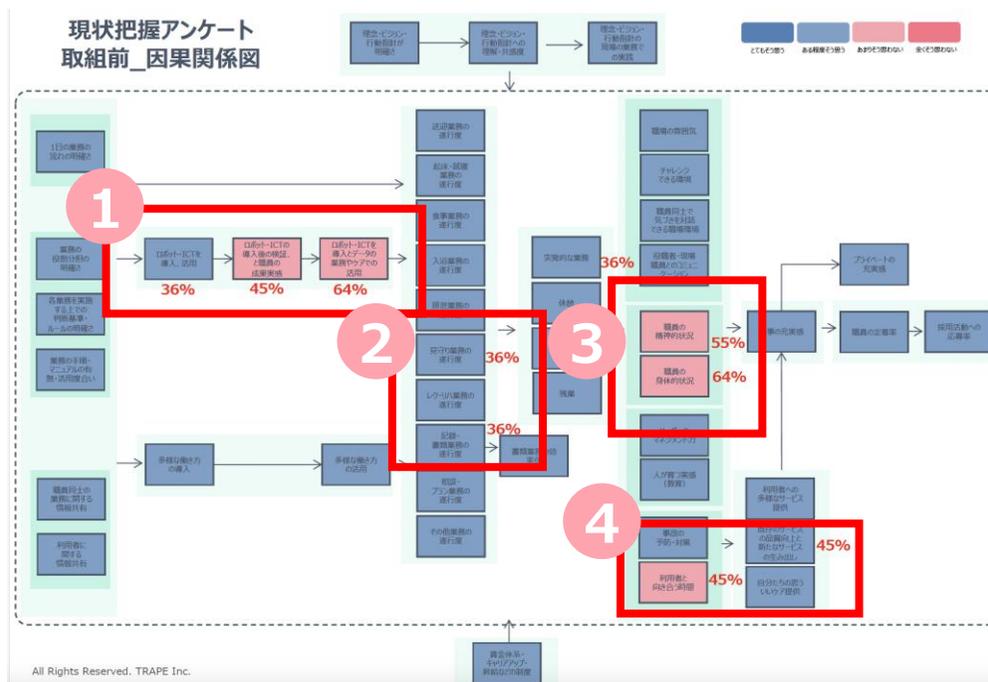
手順 2 現場の課題を見える化しよう



現状把握アンケートより因果関係図作成

考察したこと

- ①テクノロジーの活用、成果の実感、ケアでの活用が上手くいっていない
- ②見守りや記録・書類業務については3割を超える職員が上手くいっていない
- ③精神的、身体的負担が大きい
- ④利用者ケアの時間が取れていない



手順2 現場の課題を見える化しよう



自分たちの目指す姿ややりたいことを出し合う（一部抜粋）

【目指す姿】

- 利用者に楽しみを持って生活してもらいたい
- 利用者とやりがいや生きがいを感じられる時間を共有したい

【具体的な内容】

- さつき街では、歌が好きな利用者さんが多いため、昔の歌をみんなで歌いながら気分転換を図り、楽しんでもらいたいと考えている。また、寝たきりの方にも、少しでもその歌声が響いてくれることを願っている
- レクリエーションや畑への散歩など、利用者と一緒に活動を行い、気分転換を図る時間を増やしていきたいと思っている。実際に、利用者の中には「体を動かすと気持ちがいい」と話してくれる方もおり、そのように感じていただける利用者が少しでも増えることを目指している
- 利用者と一緒に話をしたり、作業をしたりする時間を大切にしたいと考えている。特にお菓子作りについては、以前月に一度のペースでおやつ作りを行い、利用者がとても楽しんでいた経験があるため、ぜひ再び取り組んでいきたい
- 居室の整理整頓では、その人らしい居室づくりを心がけ、気持ちよく過ごしてもらえる環境を整えたいと考えている。利用者との会話の中で、過去の思い出を語る際に生き生きと話される姿を見ると、とても嬉しく、そのような時間をこれからも大切にしていきたい
- 一つ一つのケアを丁寧に行うことを心がけながら、利用者一人ひとりに寄り添うケアを提供していきたいと考えている。また、生活状況やプラン評価については、時間をうまく作れる職員もいれば、そうでない職員もいるため、やりたいこととお互いに言い合うことで、各自の余裕を確保し合える環境を目指している。その結果、時間の確保が可能となり、利用者へのサービスをより良い形で還元できると信じている



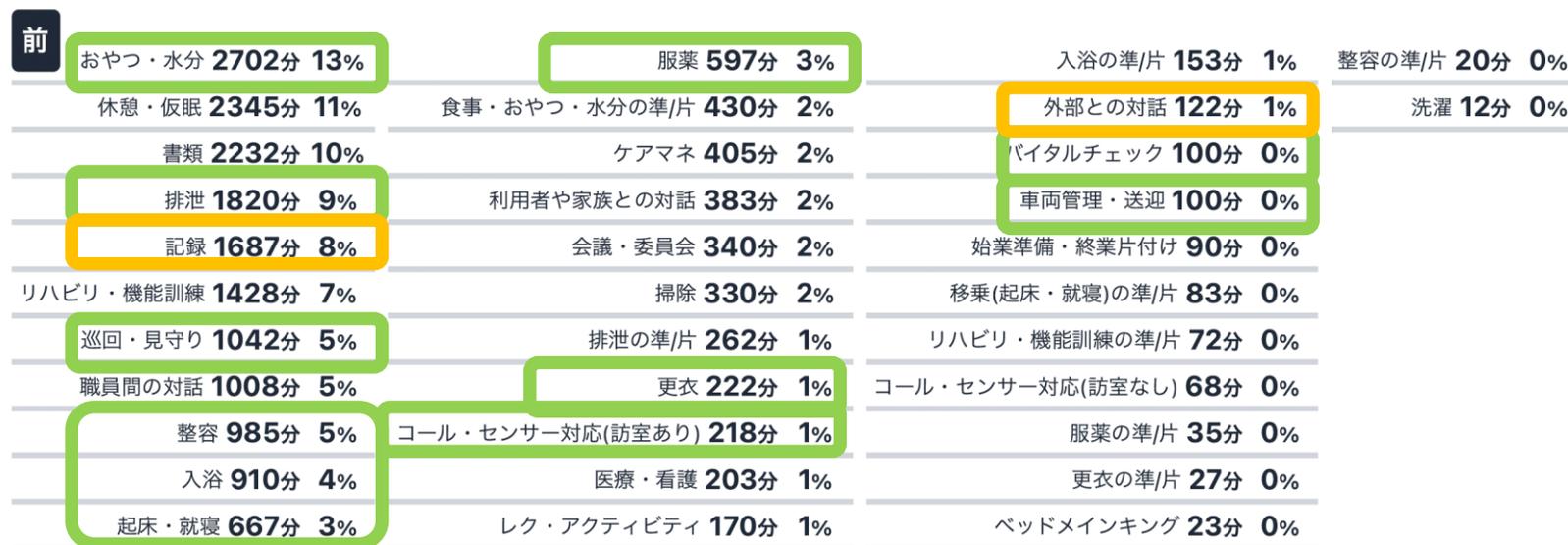
手順2 現場の課題を見える化しよう



介護ロボットプラットフォーム

深堀アンケート実施（タイムスタディ）

- **緑枠**は直接介護で時間を占める割合が上位に多い
- **黄枠**はハナスト使用時間（記録、外部との対話 = インカム使用）
→ **実際、インカム使用時間が少ないことがわかった（外部との対話）**

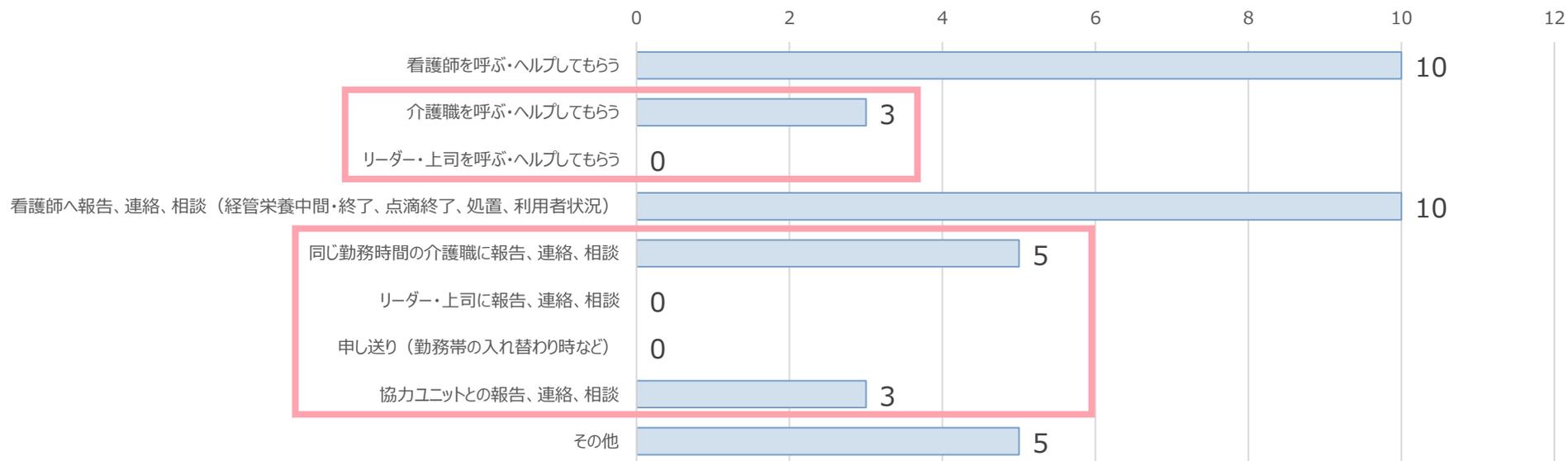


手順2 現場の課題を見える化しよう



深堀アンケート実施（ハナスト機能 インカム使用について）

- 介護職同士のリアルタイムな対話・連携が少ない
- リーダーや申し送り、協力ユニットとのリアルタイムな報告、連絡、相談が少ない



手順2 現場の課題を見える化しよう



業務棚卸し

ハナスト使用の基準・ルール（ハナスト使用時間はマスターライン参照、ハナスト使用の方法についてはマニュアル参照）

	使用項目	内容
インカム	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師を呼ぶ ・夜勤者との連絡 ・協力ユニットとの連絡 ・ユニット全体間での連絡 ※場合によってはPHSも併用して使っている	【看護師を呼ぶ】 ・経管栄養終了 ・点滴終了 ・処置 ・全身観察(入浴時、ショート利用者や普段と違った皮膚状態が見られた際に確認をしてもらう時) 【ユニットへの(全体)連絡】 ・次の入浴者の準備確認(経管者の入浴可能かや、次の入浴者の報告) ・入浴時利用者の持ち物を持ってきてほしいとき ・人がいない時などのヘルプ依頼 【協力ユニットへの連絡】 ・移乗介助時の協力要請 ・見守りや二人介助等のヘルプ依頼 【夜勤者との連絡】 ・急変時の連絡 ・吸引依頼 ・不穏利用者の見守り依頼
排泄		【排尿、排便共に量の記録を隠語を使って記録】※入浴時に行った際実施すれば記録する ①排尿ナシ、少量、普通、多量 ②排便ナシ、付着、少量、普通、多量 【対応項目で陰部洗浄実施の記録】(1日1回行う事となっている。入浴者以外) ・排泄介助時の陰部洗浄を行った際の実施記録 ①実施したら記録する。 ②実施しない場合は記録しない。 ・尿汚れや排便等で洗浄を行った際の実施記録(上記以外で陰部洗浄を行った場合) ①実施したら記録する。 対応（陰部洗浄を行ったのか、着替え有無、シーツ交換有無） 実施の様子（表情、言動、行動など） 理由（なぜ実施したか） ②実施しない場合は記録しない。 ※排泄状態に関しては、ケアカルテの排泄や状態観察にPCで入力

- ハナストのインカム機能について、導入時職員全員どんな時に使用を予定してたかリーダーが見える化
- ハナストの記録機能はどんな業務のどんな内容に使用予定であったかリーダーが見える化

手順2 現場の課題を見える化しよう



業務棚卸し

- 1日の業務流れを10分単位で見える化、ハナスト使用をいつ行っているかわかる範囲で見える化

業務の流れ（介護・看護）

目安時間	早番1	早番2	遅番2	遅番5	夜間	介護 ハナスト使用/ (インカム・記録)	看護 (早)	看護 (遅)	看護 ハナスト使用/ (インカム・記録)
06:30-06:40	整容、洗顔、離床					整容の記録			
06:40-06:50									
06:50-07:00									
07:00-07:10	トイレ誘導	トイレ誘導				排泄の記録			
07:10-07:20	排泄、体位交換	排泄、体位交換				排泄体位交換の記録			
07:20-07:30									
07:30-07:40	嚥下体操	嚥下体操							
07:40-07:50	朝食準備	朝食準備					経管栄養・インシュリン・検温（一人勤務の時は検温はユニット対応）		
07:50-08:00	食事介助	食事介助							
08:00-08:10									
08:10-08:20									
08:20-08:30									
08:30-08:40	食事入力	食事入力							記録で使用。パッド入力もあり
08:40-08:50	口腔ケア、臥床	口腔ケア、臥床				口腔ケアの記録	記録入力		
08:50-09:00									
09:00-09:10	トイレ誘導	トイレ誘導				排泄の記録	申し送り	掃除	浣腸依頼、経管・吸引の報告あり
09:10-09:20									
09:20-09:30	経管栄養終了	経管栄養終了				医務へ経管終了の報告			
09:30-09:40	排泄、体位交換、吸引	申し送り				早1は排泄、体位交換の記録	配薬	点滴準備	
09:40-09:50		お風呂準備					ショート受入	浣腸準備	
09:50-10:00		利用者コーヒータム						薬作成	
10:00-10:10								退所記録	
10:10-10:20									
10:20-10:30									
10:30-10:40									
10:40-10:50	記録	リネン交換					休憩		
10:50-11:00	申し送り		申し送り						
11:00-11:10									
11:10-11:20	休憩	離床、ベッド移動	離床、ベッド移動					内服薬チェック、ショート服薬チェック	
11:20-11:30									

手順3 実行計画を立てよう



今回取組む課題

- 介護職同士の連携が少ない
- 記録業務がうまくいっていない職員がある程度いる
- 導入しているハナストがうまく活用できていない
- 職員の心身的負担があり利用者のケアに影響がでている

今回この取組みを選択した背景

- 現状把握アンケートの結果、ICTの活用がうまくいっていないと感じている職員が多いことが明らかになった。職員との対話を通じて、ハナスト機能の活用に関する具体的な課題が浮き彫りになった
- ハナストを活用した記録では、話している途中で通信が切れる、使用する項目が職員ごとに異なるなどの問題があり、効率的に活用できている職員とそうでない職員の間で差が生じていることが判明した。また、ハナストのインカム機能については、主に看護師への経管栄養の報告にしか使われておらず、その他の用途での使用はほとんど見られなかった。特に介護士同士の連携における活用が少なく、パート職員はほとんど利用していない状況だった
- これらの課題に対応するため、記録業務や職員間の連携をスムーズに行える環境づくりを進める。具体的には、記録業務や連携に関する基準・ルールを策定し、ハナストを「誰が、いつ、どこで使用するのか」を明確化する。さらに、1日の業務を整理し、役割を見える化した「マスターライン」にハナストの活用方法を組み込むことで、効率的な活用を促進する
- これらの取り組みを通じて、ハナスト機能の活用を促進し、記録業務や職員間の連携をスムーズに行える職場環境を目指す



ここまでの段階で苦労した点・工夫した点

苦労したこと

- 業務の合間に時間を見つめて取り組みを行わなければならず大変だった
- 職員との対話も、実施する自分たちもやり方がわからず戸惑う事が多かった
- 口頭伝達で行っていたことを見える化していく時に、誰がどんな認識を持っているのか、ハナストの基準・ルール、マスターラインどちらも対話で確認していき、現状を見える化することが大変だった
- それぞれの勤務ごとに10分スタディを作り、誰がどのタイミングでどのような動きをとるのか、普段の動きと照らし合わせながら考えるのに時間がかかり大変だった

工夫したこと

- 職員との対話時間を確保するため、リーダー同士で連携し、職員全員と対話できるよう手分けした
- 少人数や1対1など話しやすい環境作りや、思いを聞いて共感したり感謝を伝えるなど話し方を一方的にならないようにしたり、職員と向き合う姿勢を常にもつことを意識した

学んだこと

- 職員が普段どんなことを感じ、思い、考え、悩み、不安に思っているのか知ることができたり、こんないいアイデアを持っていたのか、とてもいい考え方・向き合い方だなとか共感したり、新たな気づきを得ることができ、自分自身の考えも変わっていった
- 職員によっては業務の動きが異なり、皆で同じ基準で動くことが大切なのだと感じた。

取り組みの結果



介護ロボットプラットフォーム

パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

手順4 改善活動に取り組もう

実施した取組み

アプローチ1 マスターラインの作成

- 誰がどこで何を行っているか、ハナストは誰が使用しているかを詳細に見える化

目安時間	早番1	目安時間	早番1	介護・看護	夜間	介護 ハナスト使用/(インカム・記録)
06:30-06:40	離床・トイレ誘導・整容:利用者名	06:30-06:40	離床・トイレ誘導・整容:利用者名			
06:40-06:50	排泄、整容、離床:利用者名 (本人の覚醒状態によって離床する。)	06:40-06:50	排泄、整容、離床:利用者名 (本人の覚醒状態によって離床する。)			記録:整容(早番1)
06:50-07:00	排泄、体位交換:利用者名	06:50-07:00	排泄、整容、離床:利用者名 (本人の覚醒状態によって離床する。)			インカム:離床、トイレ誘導の順番について職員との連絡(早番1、2) 記録:排泄(早番1、2)
07:00-07:10	排泄、体位交換:利用者名					インカム:2人介助の場合はヘルプ連絡(早番1、2) 記録:①排泄②体位交換(早番1)
07:10-07:20	排泄、体位交換:利用者名					
07:20-07:30	朝食準備					
07:30-07:40	食事全介助:利用者名					
07:40-07:50	食事全介助:利用者名					
07:50-08:00	食事全介助:利用者名					
08:00-08:10	食事一部介助:利用者名					
08:10-08:20	食事一部介助:利用者名					
08:20-08:30	食事入力 タブレットにて					
08:30-08:40	ベット移動、口腔ケア:利用者名					
08:40-08:50	ベット移動、口腔ケア:利用者名					
08:50-09:00	ベット移動、口腔ケア:利用者名					記録:口腔ケア(早番1、2)
09:00-09:10	ベット移動、口腔ケア:利用者名					
09:10-09:20	ベット移動、口腔ケア:利用者名					インカム:臥床、トイレ誘導の順番について職員との連絡(早番1、2) 記録:排泄、口腔ケア(早番1、2)
09:20-09:30	口腔ケア、臥床:利用者名					インカム:看護師へ経管終了の報告(早番1、看護)
09:30-09:40	排泄、体交、口腔ケア:利用者名					
09:40-09:50	排泄、体交:利用者名					インカム: ①2人介助必要な時の連絡(早1、早2) ②状態観察や、吸引の報告、処置、GE、排便必要な時は看護師に連絡する(早1、看護) 記録:排泄、体位交換(早1) ※必要に応じて看護師へ吸引の報告
09:50-10:00	排泄、体交:利用者名					
10:00-10:10	排泄、体交:利用者名					
10:10-10:20	排泄、体交:利用者名					
10:20-10:30	排泄、体交:利用者名					
10:30-10:40	排泄、体交:利用者名					
10:40-10:50	PC記録確認					
10:50-11:00	申し送り					インカム:早1→遅2交代

シフトごとに10分単位で役割を明確化、また利用者の優先順位も(基本)をマスターラインに記載

インカムを誰と誰が使用するのか
いつ充電するのか
マスターラインに記載

インカム:離床、トイレ誘導の順番について職員との連絡(早番1、2)
記録:排泄(早番1、2)

インカム:2人介助の場合はヘルプ連絡(早番1、2)
記録:①排泄②体位交換(早番1)

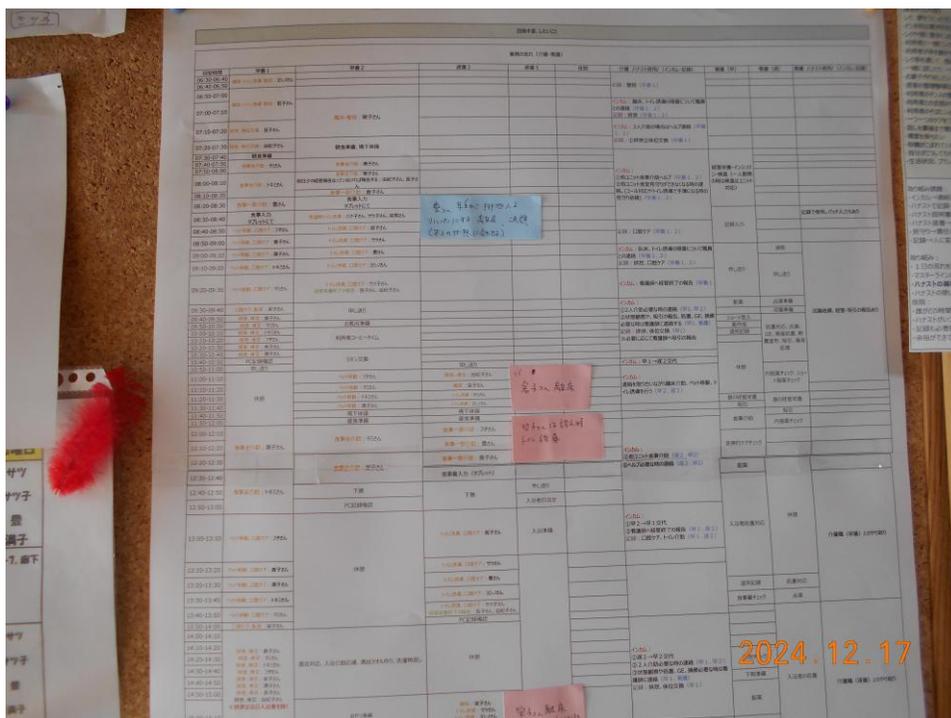
手順4 改善活動に取り組もう



実施した取組み

アプローチ1 マスターラインの作成

- 職員が気づきを付箋で貼り、リーダーがそれを元にブラッシュアップ



職員が付箋で気づきを貼る



リーダーがブラッシュアップ

手順4 改善活動に取り組もう

実施した取組み

アプローチ2 ハナスト機能（インカム、記録）基準・ルール作成

ハナスト使用の基準・ルール（ハナスト使用時間はマスターライン参照、ハナスト使用の方法についてはマニュアル参照）

使用項目	内容
<ul style="list-style-type: none"> ・看護との連携 ・夜勤者との連絡 ・協力ユニットとの連絡 ・ユニット全体間での連絡 	<p>インカム機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師との連携内容 ・ユニット内での連携内容 ・協力ユニットとの連携内容 ・夜勤者連携
<p>インカム</p> <p>記録機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄 ・食事・おやつ ・入浴 ・整容 ・口腔ケア ・体位変換 ・支援計画 	<p>【看護との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経管栄養終了 ・点滴終了 ・処置(浣腸、摘便の依頼、排便の有無報告) ・吸引実施の報告 ・状態観察(嘔吐、けいれんなどの急変時) ・バイタル異常値の報告 ・転倒、転落のアクシデント発生時の報告や指示、全身観察 ・全身観察(入浴時、ショート利用者や普段と違った皮膚状態が見られた際に確認をしてもらう時) <p>【ユニットへの(全体)連絡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の入浴者の準備確認(経管栄養、点滴、吸引) ・入浴時利用者の持ち物を持つ ・人がいない時などのヘルプ依頼 <p>【協力ユニットへの連絡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移乗介助時の協力要請 ・見守りや二人介助ヘルプ ・食事介助 <p>【夜勤者との連絡】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急変時の連絡 ・吸引依頼 ・不穏利用者の見守り依頼
<p>排泄</p>	<p>【排尿、排便共に量の記録を隠語を使って記録】※入浴時に行った際実施すれば記録する</p> <ol style="list-style-type: none"> ①排尿ナシ、少量、普通、多量 ②排便ナシ、付着、少量、普通、多量 <p>【排泄処置】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①陰部洗浄行った場合の実施記録(1日1回行う事となっている。入浴者以外) ②実施しない場合は記録しない <ul style="list-style-type: none"> ・尿汚れや排便等で洗浄を行った際の実施記録(上記以外で陰部洗浄を行った場合) <ol style="list-style-type: none"> ①実施したら記録する。 <p>対応 (陰部洗浄を行ったのか、着替え有無、シーツ交換有無)</p> <p>実施の様子 (表情、言動、行動など)</p> <p>理由 (なぜ実施したか)</p> <ol style="list-style-type: none"> ②実施しない場合は記録しない。 <p>【排泄状態】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①いつもと違う様子あれば記録する。(尿の濁り、濃縮尿、泥状便、軟便、水様便等) <p>※、ケアルテの排泄や状態観察でPCで入力可</p>

手順4 改善活動に取り組もう

実施した取組み

アプローチ3

- ハナスト装着・基本機能操作マニュアル作成

ハナスト操作マニュアル P1	イヤホン装着
1	マイク付きイヤホンの準備 iphoneの本体番号と同じ番号のインカムを準備します。番号が違うと連携しないので必ず確認してください。
2	イヤホンの装着 写真のようにイヤホンを装着します。
3	イヤホンの電源を入れる 装着後、電源ボタンが右耳の後ろに来ます。耳に近い方のボタンを長押しし、電源を入れてください。 電源が入ると機械から音声が流れます。耳に近い方が音量、遠い方が音量-ボタンです。
4	イヤホンマイクのオン・オフ イヤホンの電源を入れると自分や周囲の声に反応するようになります。 意識せず入力力が立ち上がることもあるので、イヤホンマイクのオン・オフを使うと誤作動を防げます。
5	ハナストの起動 (iphone操作) iphoneのロックを立ち上げ、ハナストのアイコンをタッチします

ハナスト装着

ハナスト操作マニュアル P2	ハナスト使用開始
6	ハナストログイン ケアロボットのログインIDとパスワードを入力し、ログインをタップします。
7	2 記録以外のログイン 初期ログイン後は自分の名前が表示されるようになります。 2 記録後はそれをタップしてログインします。
8	自分の記録画面 自分の記録画面の表示です。 自分の名前を入力した内容を確認できる画面です。
9	みんな ハナストで入力された記録を確認できます。 自分の他のスタッフの表示もできます。
10	音声で スタッフ間の連携内容を音声で確認できます。
11	ログアウト 使用終了時は必ずログアウト操作を行ってください。 ホーム画面下の「設定と情報」をタップし、次の画面で「ログアウト」をタップします。
12	iphoneとイヤホンの充電 ログアウトすると充電の状況が表示されます。 充電満了時に充電ケーブルの充電を行ってください。
13	iphoneの充電 iphone下部に充電ケーブル差し込み口があります。 ケーブルを接続すれば充電されます。
14	イヤホンの充電 イヤホンは充電ケーブル差し込み口を接続してください。 充電満了まで、向きを確認しながら接続してください。
15	その他注意事項 ・wifiが弱ってしまったときは、一度iphoneの電源を切った後再起動してみてください。

ハナスト使用開始・終了

ハナスト操作マニュアル P3	記録の使い方
11	記録操作1 記録の合図 1.開始の合図 「Hey Mii (ハイ マイズ)」と発話するとハナストが「はい」と反応します。
12	記録操作2 記録の開始 2.記録の開始 ハナストが「はい」と反応をしたことを確認し、続けて「記録」と発話します。 ハナストから「記録中」という発話の音声が流れます。
13	記録操作3 内容の発話 記録内容ごとに発話ルールが定められています。 別紙ハナスト発話マニュアルを見ながら内容を発話してください。
14	記録操作4 記録の完了 入力が成功するとハナストから「キラーン」と音が流れ、写真のように札が作成されます。 失敗した場合は札が作成されず、赤いメッセージが表示されます。 右上の編集ボタンを押すと、画面から記録を修正することができます。
15	記録操作5 記録の連携<ハナスト>ケアルテ> ハナストで行った記録は、連携操作を行わないとケアルテに反映されません。 記録操作の最後には必ず連携を行ってください。 記録の都度ではなく、記録をまとめて送信することができますのでうまく活用してください。

記録の使い方

ハナスト操作マニュアル P5	連絡の使い方
16	連絡操作1 記録の合図 1.開始の合図 「Hey Mii (ハイ マイズ)」と発話するとハナストが「はい」と反応します。
17	連絡操作2 記録の開始 2.連絡の開始 ハナストが「はい」と反応をしたことを確認し、続けて「連絡」と発話します。 ハナストから「記録中」という発話の音声が流れます。
18	連絡操作3 内容の発話 全体に連絡する場合は最初に「全体」と発話します。 全体と書かなかった場合は協力ユニットのみに連絡が流れます。 連絡内容が発話してください。
19	連絡操作4 連絡の完了 「4.連絡の完了」 ハナストから「キラーン」という音が出るまで連絡が完了です。
20	連絡を流す内容 以下の業務時は積極的にハナストの連絡を活用してください。 【看護時呼び】 ・経路の確保時 ・点滴終了 ・処置 ・全身観察入浴時、ショート利用者や普段と違った皮膚状態が認められた際に確認を促す時 【ユニットへの全病棟連絡】 ・次の入浴者の準備確認(待合室への入室可否や、次の入浴者の報告) ・入浴利用者への持ち物を持ってきてほしいとき ・人がいない時などのヘルプ依頼 【協力ユニットへの連絡】 ・経路や設備の確認や確認 ・見守りや二人介助等のヘルプ依頼 【取次者との連絡】 ・急変時の連絡 ・呼び依頼 ・不慣れ利用者の見守り依頼

連絡の使い方

手順4 改善活動に取り組もう

実施した取組み

アプローチ4 ハナスト記録機能発話マニュアル作成

- 各業務ごとに名刺サイズのカード型マニュアルを作成

【食事】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 朝食/昼食/夕食 数値 (0~10) 3. 主食 数値 (0~10) 4. 副食 数値 (0~10) 5. 水分量 ○cc (数値) 6. 流動食 ○cc (数値) 7. 介助 全介助/一部介助/見守り/自立 8. 場所 居室/ホール/ステーション/ 外食 ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【おやつ】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. おやつ 3. 飲料 ○○ (自由発話) 4. 水分量 ○cc (数値) 5. 内容 ○○ (自由発話) 6. 摂取量 ○○ (自由発話) ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【口腔ケア】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 口腔ケア 実施/中止 3. 方法 ○○ (自由発話) 例: 歯磨き、うがい、 義歯洗浄、口腔内洗浄など 4. 状態 ○○ (自由発話) 5. 対応 ○○ (自由発話) ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【食事状態】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 食事状態 3. 状態 ・状態観察、特変無し。経管栄養を開始する。 ・状態観察、特変なく経管栄養進行中。 ・状態観察、特変なく経管栄養終了する。 4. 対応 ・特変なく終了した旨報告する。 申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【入浴】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 入浴 実施/中止 3. 方法 個別/一般浴/特浴/リフト浴/ シャワー浴/定浴 4. 中止理由 ○○ (自由発話) 例: 発熱、おう吐、拒否あり 等 5. 代替ケア 清拭/部分清拭 6. 介助 全介助/一部介助/見守り/自立 ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【入浴状態】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 入浴状態 3. 観察 ○○ (自由発話) 4. 様子 ○○ (自由発話) 5. 対応 ○○ (自由発話) 申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【状態観察】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 状態観察 3. 症状 ・全身観察にて異常なし ・全身観察。○○赤みあり など (自由発話) 4. 対応 ○○ (自由発話) 申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【支援経過】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 支援経過 3. 概要 (項目) ○○ (自由発話) 4. 内容 ○○ (自由発話) ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	
【排泄】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 排泄量 3. マル (原量) 2 (普通)/1 (少し)/3 (多い) 4. シカク (便量) 2 (普通)/1 (少し)/3 (多い) 5. マルシカクゼロ (排泄無) ※排泄無の場合 6. 尿量 ○cc 7. 方法 オムツ/トイレ/ポータブル/尿便器 8. 介助 全介助/一部介助/見守り/自立 ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【排泄状態】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 排泄状態 3. 内容 ○○ (自由発話) 例: 濃縮尿、尿の濁り 4. 対応 ○○ (自由発話) ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【排泄処置】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 排泄処置 ○○ (自由発話) 例: 陰部洗浄 3. 薬剤 ○○ (自由発話) ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【体位交換】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 体位交換 ①実施の場合 「実施」と発話 ②自動体交の場合 「対応、2時間毎自動体交」と発話 ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【整容】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 整容 実施/中止 3. 内容 ○○ (自由発話) 4. 対応 ○○ (自由発話) ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【処置】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 処置 ○○ (自由発話) ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【経管栄養】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 経管栄養 3. 内容 CZH/PRONA/ アトール/ハイゲル 4. 摂取量 ○○ (自由発話) 5. 飲料 ○○ (自由発話) 6. 水分量 ○cc (数値) ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【バイタル】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. バイタル 3. 体温 ○○℃ (数値) 4. 血圧 ○○/○○ (数値) 5. 脈拍 ○○回/分 (数値) 6. SPO2 ○○% (数値) 7. 不整脈 リズム不整/結滞あり ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」	【個別訓練】 「ヘイウイズ、記録」 1. 呼び名さま /さん 2. 個別訓練 3. 内容 ○○ (自由発話) 例: 離床、臥床 4. 様子 ○○ (自由発話) 5. 対応 ○○ (自由発話) ※申し送り事項の場合「重要」と発話 「送信」

手順4 改善活動に取り組もう



介護ロボットプラットフォーム

実施した取組み

アプローチ4 ハナスト記録機能発話マニュアル作成

・使用するところに直接つけたり、持ち歩いたり業務に合わせて使い方を職員が工夫



D（改善活動に取り組む）の段階で苦労した点・工夫した点

苦労したこと

- マスターラインを使用することによって、これまでの自分の動きと変わること戸惑う職員がいた
- 現場の動きに合うようマスターラインは職員の意見を取り入れ、都度都度ブラッシュアップを繰り返した
- 初めて使用する職員に対し、いい体験となるよう丁寧に理解してもらえらるまで何度でも対応した
- 基準・ルールはハナストを使用する際に迷ったり不安がないよう、できるだけ詳細にわかりやすくした
- マスターラインに慣れるまで何度も自分の動きを確認しながら業務に取り組むのが大変だった

工夫したこと

- マスターラインや基準・ルールは皆で共有できるよう張り出した
- この取り組みが目的にならないよう、目指す姿・やりたいことを張り出した
- 記録発話カードはどこでも使えるよう持ち運びしやすいカード型にした
- 新人でもわかりやすく、働きやすいように、ユニット職員にマスターラインを確認しながら動いてもらい、不便な動きがないか、気づきを出してもらった

学んだこと

- 職員がこんなに力を持っていたんだと改めて感じ、目的を共有しお互いの強みを活かす環境が整うとよいケアへつながるチームケアの素晴らしさを学べた
- チームの職員自ら積極的に自分たちが働きやすいよう工夫してくれた。皆が同じ目標に向かって取り組んでいる姿がスキルアップにつながることを学んだ



パッケージモデル

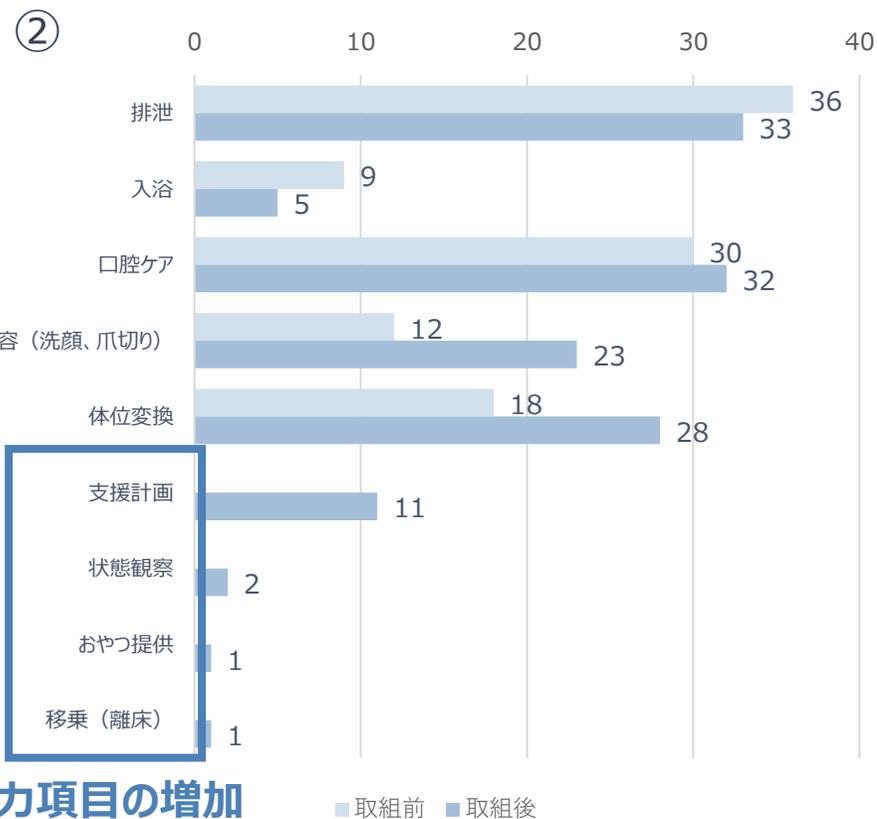
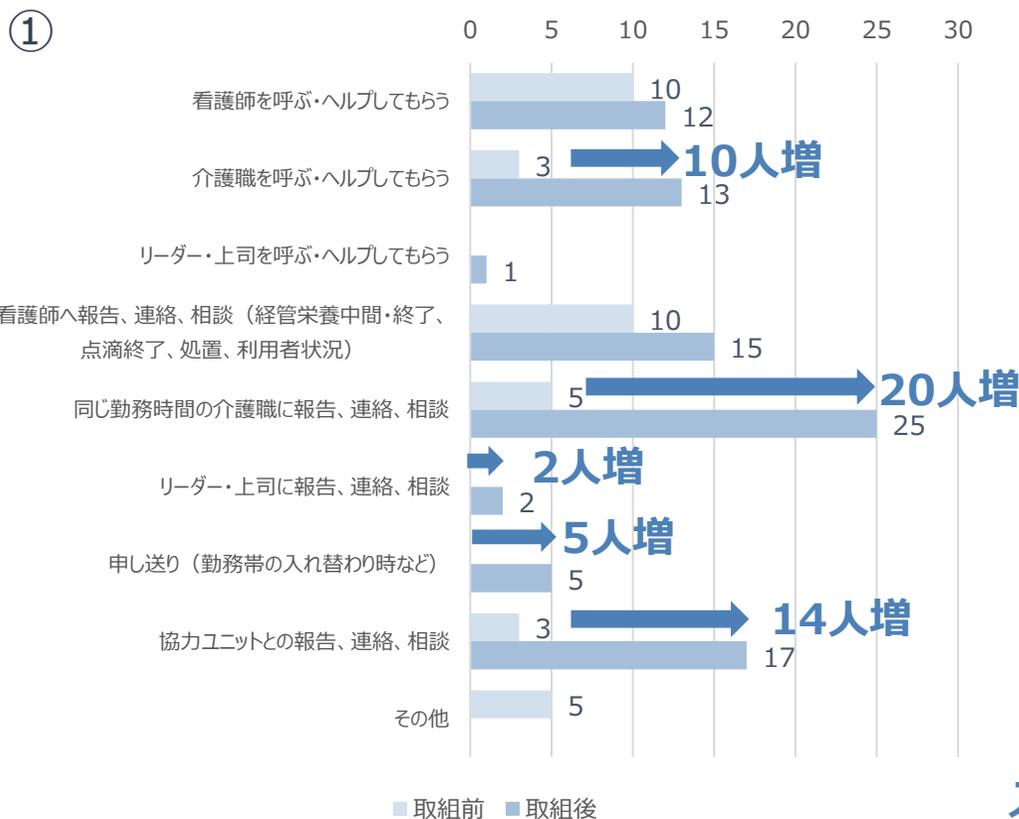
P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

手順 5 改善活動を振り返ろう

① インカム機能を活用して、どのような内容について対話したのかを教えてください

② ハナストでどのような業務記録や内容を記録しましたか？（複数選択可）

- 基準・ルール、マスターラインでインカムや記録などハナスト機能を活用できる環境を整えたため、介護職同士の連携や記録項目、各項目の入力者数の増加に繋がった



手順 5 改善活動を振り返ろう



タイムスタディ結果より

「利用者と直接関わる業務」「直接業務を行うための準備（間接業務）」時間

- 利用者一人一人に通常ケアからじっくり関わる（利用者ペース）ことができるようになった

延べ人数（人）	単位（分）	食事・おやつ・水分	排泄	整容	入浴	清拭	移動誘導(屋外)	移動誘導(屋内)の準備/片付け	レク・アクティビティ
43	取組前	2702	1820	985	910				170
35	取組後	2687	1842	1032	728	12	30	20	110

延べ人数（人）	単位（分）	食事・おやつ・水分の準備/片付け	排泄の準備/片付け	整容の準備/片付け	入浴の準備/片付け	移乗(起床・就寝)の準備/片付け	バイタルチェックの準備/片付け	更衣の準備/片付け
43	取組前	430	262	20	153	83		27
35	取組後	720	225	77	63	115	15	65

延べ人数（人）	単位（分）	服薬の準備/片付け	リハビリ・機能訓練の準備/片付け	レク・アクティビティの準備/片付け	始業準備・終業片付け	掃除	ベッドメイキング	洗濯
43	取組前	35	72		90	330	23	12
35	取組後	42	30	10	55	327	30	5

手順5 改善活動を振り返ろう



介護ロボットプラットフォーム

今回の取組みにおいて、目指す姿・やりたいことの中で実現したこと（青文字で表記）

【目指す姿】

- 人の元気や活力を生み出す取組みの時間を少しでも増やしたい
- 利用者を巻き込んで一緒に楽しみたい
- 利用者を楽しみを持って生活してもらいたい
- 利用者とのやりがいや生きがいを感じられる時間を共有したい

【具体的な内容】

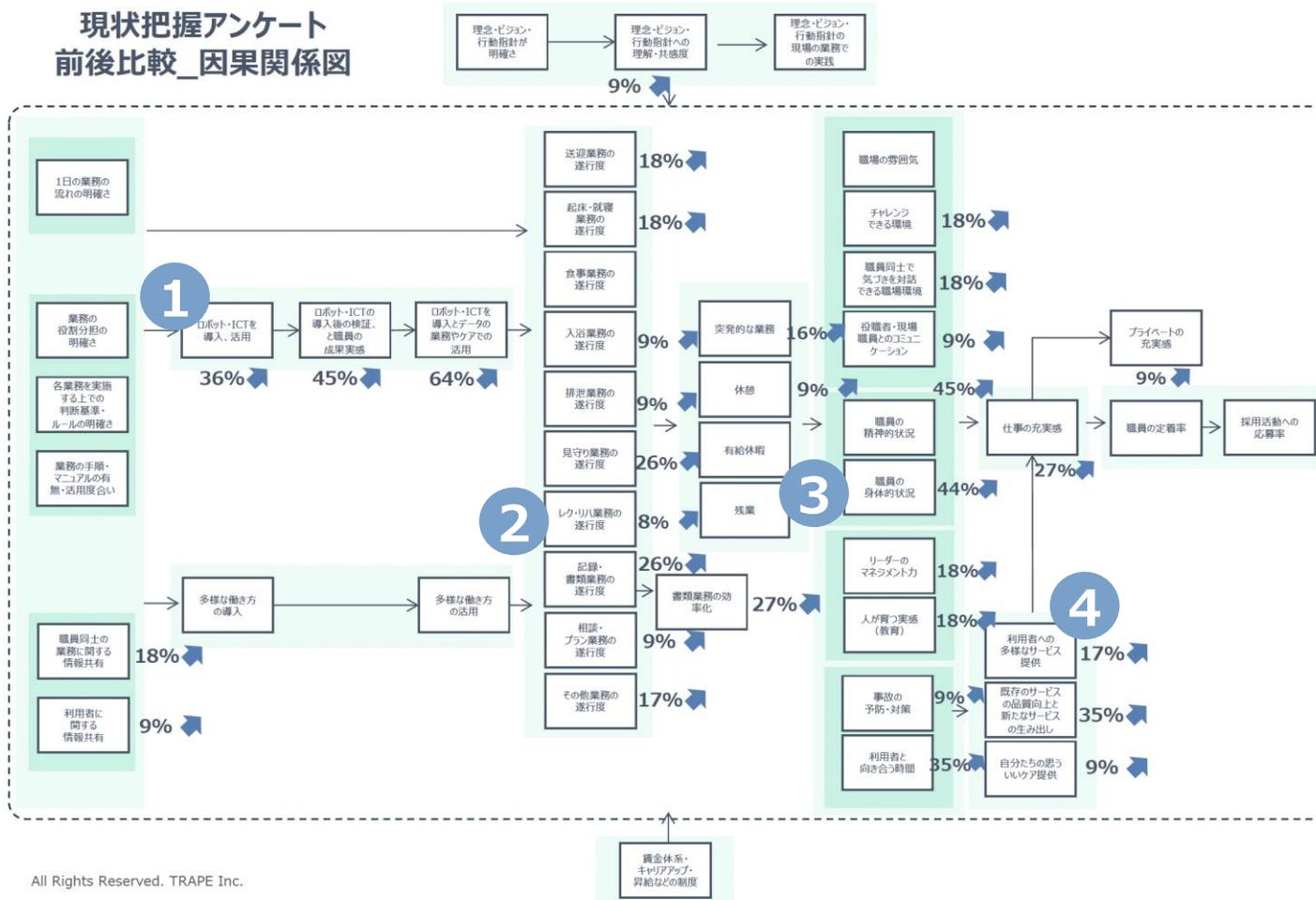
- レク、歌をうたったりしたい
- さつき街は歌が好きな利用者さんが多いので、昔の歌をみんなで歌って気分転換を図り、楽しんでもらいたい。寝たきりの方にも少しでも響いてくれればなと思っている
- 利用者と一緒にレク等行って気分転換を図りたい
- 利用者が体を動かすと気持ちがいいと言っていた人が居た。少しでもそのように思ってもらえる人が増えて欲しい
- レク等を通して、他の利用者だったり、職員とコミュニケーションを図り楽しんでもらいたい
- 一緒に話したり、一緒に作業をしたりしたい
- 居室の整理整頓は、その人らしい居室作りをして気持ちよく過ごしてもらいたい
- 利用者のタンスの整理余暇、コミュニケーションをとるなどできるようになりたい(もっと空いた時間を有効に使いたい)
- 利用者との会話の中で自身の昔あった話を聞いている時の生き生きと話してくださる様子がとてもうれしかったから、そのような時間を大切にしていきたい
- 利用者のそばにいる時間を増やしたい
- 一つ一つのケアを丁寧に行いたい
- 話を最後まで聞きたい
- 清潔を保ちたい
- 砂糖がこぼれていたらそれをそのままにせず拭いたり、普段のことを大切にしたい
- 自分がこうしてもらいたいと思うことを行いたい
- 生活状況、プラン評価については、うまく時間を作れる人もいればそうでない人もいる。やりたいことをお互いに言い合えば自分に余裕ができ、他の人にも時間を与える事が出来る。時間確保ができ、利用者サービスに還元出来る
- レクや畑に散歩に出かけたい
- お菓子作りをしたい（以前は月に一回ぐらいおやつ作りを利用者がすごく楽しんでいたから）

手順 5 改善活動を振り返ろう



現状把握アンケートより因果関係図作成

現状把握アンケート
前後比較_因果関係図



- ① ハナスト機能を最大限に活用することで、職員間の連携がスムーズになり、チームケアが実現。これにより、③職員の精神的・身体的な余力が生まれ、④利用者サービスの向上につながった
- ② 記録や書類業務が効率化され、生まれた時間を活用して利用者に余暇活動を提供できる環境が整った。これにより、④新しいサービスの提供が可能となった

手順 5 改善活動を振り返ろう

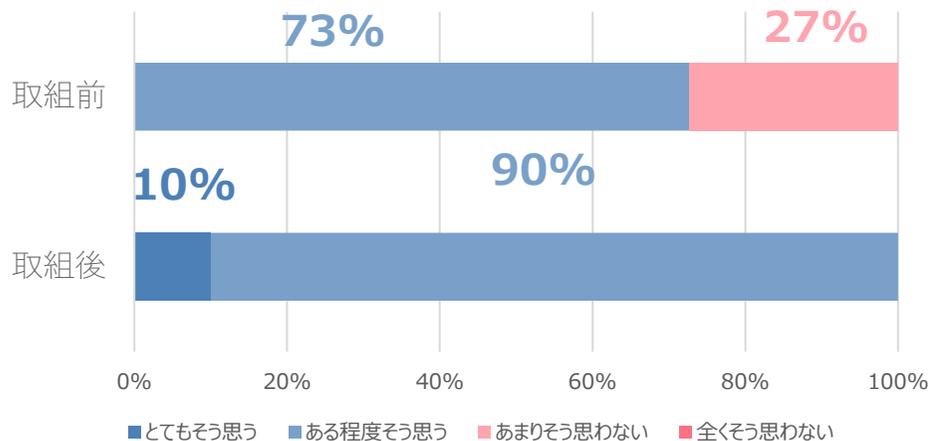


介護ロボットプラットフォーム

現状把握アンケート

- 利用者との関わりが増え専門性を活かす体験は仕事の充実感にもつながった

あなたは今、仕事をしていて充実感を感じていますか？



ポジティブ回答
27%増加



手順 5 改善活動を振り返ろう



介護ロボットプラットフォーム

利用者、職員の様子



手順5 改善活動を振り返ろう



職員との対話から職員のコメント【一部抜粋】

ハナスト インカム機能

- 協力ユニットや遅5（入浴介助）時、医務への処置依頼、その他ハナスト（インカム）を利用する職員が常に連携がとれていて、業務もスムーズに行えているように感じた
- インカムで連絡とるようになり、人を探す時間がなくなった。時間ができたことで利用者とのゆっくりコミュニケーションを取れるようになった。今後レクなども、もっと取り組んでいけたらいいと思う
- 慣れるまで大変だったが（インカム）今は付けていることが当たり前くらいになっている
- 申し送り等連絡がスムーズにできて良かった
- 職員間の連携もスムーズで、ヘルプにも行くことができたので良かったと思う

ハナスト 記録機能

- 記録漏れが少なくなり、報連相が出来て利用者のケアがスムーズにできていると思った
- 変換が他の利用者になっていたり、ケアの誤変換になってたりと送信時しっかり、確認が必要だと感じた
- 介助の都度、入力する事ができPCでは確認のみすればいいことが増えた。都度入力する事で、記録漏れもなくなった
- インカム使用に関しては、とても良かったと思う。今後三大介護の入力だけでなく、支援経過も積極的にインカムでの入力が増えればいいと思う
- 最初は戸惑ったが、記録も時間の短縮となり、利用者とのコミュニケーションがとることができた
- 記録をする時間が減り、PCでの確認作業で良くなり時間内にできるのが良かった

今後

- 1日の流れを見直すことで、利用者に関わる時間が見えてきた
- さつき街の目指す姿については、もっとできると思う。隙間時間、空いた時間を利用者の為や自分の仕事（入力、評価、車椅子掃除等）せっかくの時間をまだ活用しきれていないのかなと思う

C（改善活動を振り返ろう）の段階で苦労した点・工夫した点



振り返りを行って気づいたこと

- ハナスト機能を活用すると流れに沿った業務はリアルタイムで入力でき、利用者全員が同じ時間という事がないので自然でいいと思った
- 勤務者を探す時間がなくなって良かった（離れていても連絡ができて、楽々です。）
- マスターラインを作成した事で職員の動きが明確になり、どこで時間が使えるのかがわかり、自分たちの目指す姿に向けて取り組むことが出来た
- 新人さん(誰が見ても)でもわかるようなインカム、ハナストの基準、ルールを作るのにとても苦戦した
- 自分が新人だったら？と考えながら詳細に書き出しを行い、普段自分たちが何気なくできている事をあたらめて見える化したが、こういう環境作りが大切だと気づいた
- ハナストを活用することで、みんなで働いてる、一人じゃないという安心感は増加した。ICTの活用の成功体験は、これからも改善活動の取組みを継続していく上で次につながる体験になった
- 利用者へいいケアを提供しようと思うと、職員に時間の余裕や精神的なゆとりが必要だと思った
- 目標を全員で共有し、課題や取組の意図を全員で共通の認識をもって取り組むと、職員に余裕ができた時、利用者と関わる時間を増やせただけでなく、職員同士「こんなことどうかな？」などやりたいことを共に利用者に提供していくことができている

取り組みの結果



介護ロボットプラットフォーム

パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

手順 6 実行計画を練りなおそう

新たな課題とありたい姿に向けた次なる取り組み

新たな課題

- 利用者と関われる時間が増えたことで、直接関わるだけでなく、そのための準備である「間接業務」も多くなっている

食事・おやつ・水分の準備/片付け	排泄の準備/片付け	整容の準備/片付け	入浴の準備/片付け	移乗(起床・就寝)の準備/片付け	バイタルチェックの準備/片付け	更衣の準備/片付け
720	225	77	63	115	15	65 (分)
服薬の準備/片付け	リハビリ・機能訓練の準備/片付け	レク・アクティビティの準備/片付け	始業準備・終業片付け	掃除	ベッドメイキング	洗濯
42	30	10	55	327	30	5 (分)

次なる取り組み

- 間接業務にあたる時間を更に専門性の高い直接ケアへ注力できるよう、ICTやロボットの導入や介護助手の導入・活用の検討をしていく

目安時間	早番 1	早番 2
06:30-06:40	離床・トイレ誘導・整容：利用者名	
06:40-06:50		
06:50-07:00	排泄、整容、離床：利用者名 (本人の覚醒状態によって離床する。)	
07:00-07:10	排泄、体位交換：利用者名	離床・整容：利用者名
07:10-07:20	排泄、体位交換：利用者名	
07:20-07:30	朝食準備	朝食準備 、嚥下体操
07:30-07:40	食事全介助：利用者名	
07:40-07:50		食事全介助：利用者名
07:50-08:00	食事全介助：利用者名	食事全介助：利用者名 前日夕の経管報告ならなければ報告する：利用者名
08:00-08:10		
08:10-08:20	食事一部介助：利用者名	食事一部介助：利用者名
08:20-08:30	食事入力 タブレットにて	食事入力 タブレットにて
08:30-08:40	ベット移動、口腔ケア：利用者名	希望時トイレ誘導：利用者名
08:40-08:50	ベット移動、口腔ケア：利用者名	トイレ誘導、口腔ケア：利用者名
08:50-09:00	ベット移動、口腔ケア：利用者名	トイレ誘導、口腔ケア：利用者名
09:00-09:10	ベット移動、口腔ケア：利用者名	トイレ誘導、口腔ケア：利用者名
09:10-09:20	ベット移動、口腔ケア：利用者名	トイレ誘導、口腔ケア：利用者名
09:20-09:30	口腔ケア、臥床：利用者名	トイレ誘導、口腔ケア：利用者名 経管栄養終了の報告：利用者名
09:30-09:40	排泄、体交、口腔ケア：利用者名	申し送り
09:40-09:50	排泄、体交：利用者名	
09:50-10:00	排泄、体交：利用者名	お風呂準備

間接業務赤字

- ・朝食準備
- ・お風呂準備

※一部抜粋



Kaigo-Robot
Platform 2024

まとめ



プロジェクトを通じて得た学び、感じたこと

- ここまでできたことも職員の協力があったことだと思っている
- これを機に学んだこと、気づけたこともあるので利用者にもっと良いケアを提供できるように更に進化していきたい
- 取組みユニットの職員と働いていて、やる気が見え、意欲的になってきていて、いいなと感じている
- この取組みを通して自分の考えが変わった。そして自分のユニットに対し思うこと、気づきも見えているので、もっと利用者のために時間が使っていけるようにしていきたい
- ここ数年仕事をしていく中で、優先順位が変わってしまっていたことに気づいた。利用者に対してのケアよりも仕事に追われて早く終わらせようとか、自分の仕事以外に他の職員の仕事を手伝うことを優先してしまい、利用者の事が二の次になっていたように感じた。伴走支援の取組みを通して、自分の仕事は何なのか、介護福祉士として利用者には何ができるのか、インカム、ハナストを効率よく使い、利用者主体のより良いケアができるようみんなで協力していきたいと思った

事業所としての今後の方針

- ICT機器の導入や活用の取組みを通して職場全体が活性しており、この前向きなベクトルを利用者への支援につなげていきたい
- 生産性向上はまだまだ道半ばで、インカム活用の横展開の取組みはもちろん、次は県の補助金を活用して導入した見守りセンサーをフル活用すべく、試行錯誤を重ねていきたい
- 取り入れられるものは何でも取り入れて、利用者も、職員も一緒に明るく充実した毎日を過ごせるようチャレンジを続けたい



- ケアサポーターの活用

- 業務の棚卸を行い、ケアサポーターに任せたい業務内容を整理

- ケアサポーターを新たに雇用し、ユニット内の清掃や入浴準備、浴室清掃など幅広く活躍してもらっている。

- 見守りセンサーの活用

→見守りセンサー全室導入を実現！

→まだまだ活用しきれていない現状があるため、センサーから得られるデータの活用を目指した取り組みに着手している。



- 介護職員の働きやすい職場環境づくり
厚生労働大臣奨励賞を受賞！！



ケアプランデータ連携システム活用促進 モデル事業説明会を開催します



導入するなら今がチャンス！

令和7年
11月20日(木)
13:30-15:30

徹底的なサポート体制があるのは今だけ！

- 誰にでもわかりやすく説明した資料が手に入ります
- 研修会で導入から活用まで丁寧に解説します
- 一人で悩まず、困った時は気軽に相談できます
- 今なら無料で利用できます

みんなで使えば、みんながラクに！

事業説明会

日時 令和7年 11月20日(木) 13:30-15:30

場所 プラザイン水沢

〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河後田29

定員 100人（※定員を超過するお申込みがあった場合は、奥州市所在の事業所様を優先させていただきます）

講師 株式会社TRAPE代表取締役 鎌田 大啓

厚生労働省「生産性向上ガイドライン」の作成に深く関わり、介護現場の生産性&働きがい向上、介護テクノロジー導入・活用などに関して豊富な実績を有している。ケアプランデータ連携システムの国の委員を務め、全国でモデル事業の展開を行っている。

- 内容
- ケアプランデータ連携システムの説明
 - モデル事業所説明、Q&A
 - ケアプランデータ連携システムのデモ体験

問い合わせ先
社会福祉法人奥州いさわ会特別養護老人ホーム
ぬくもりの家 事務長 小原 守
TEL：0197-46-5100
事業協力：株式会社TRAPE

こちらのQRコードよりお申し込みください

申込URL
<https://forms.gle/dzRTYNq1EVfQ6FAz8>



奥州市をモデル地域とした ケアプランデータ連携システム研修会

日時 令和7年11月20日(木)
13:30~15:30

場所 プラザイン水沢
定員 100人

岩手県をケアプランデータ連携システム 活用先進地にしましょう！！

特に奥州市の皆さん！ 一緒に取り組みましょう！！

“ケアプー”、使ってる？



ケアプランデータ連携システム